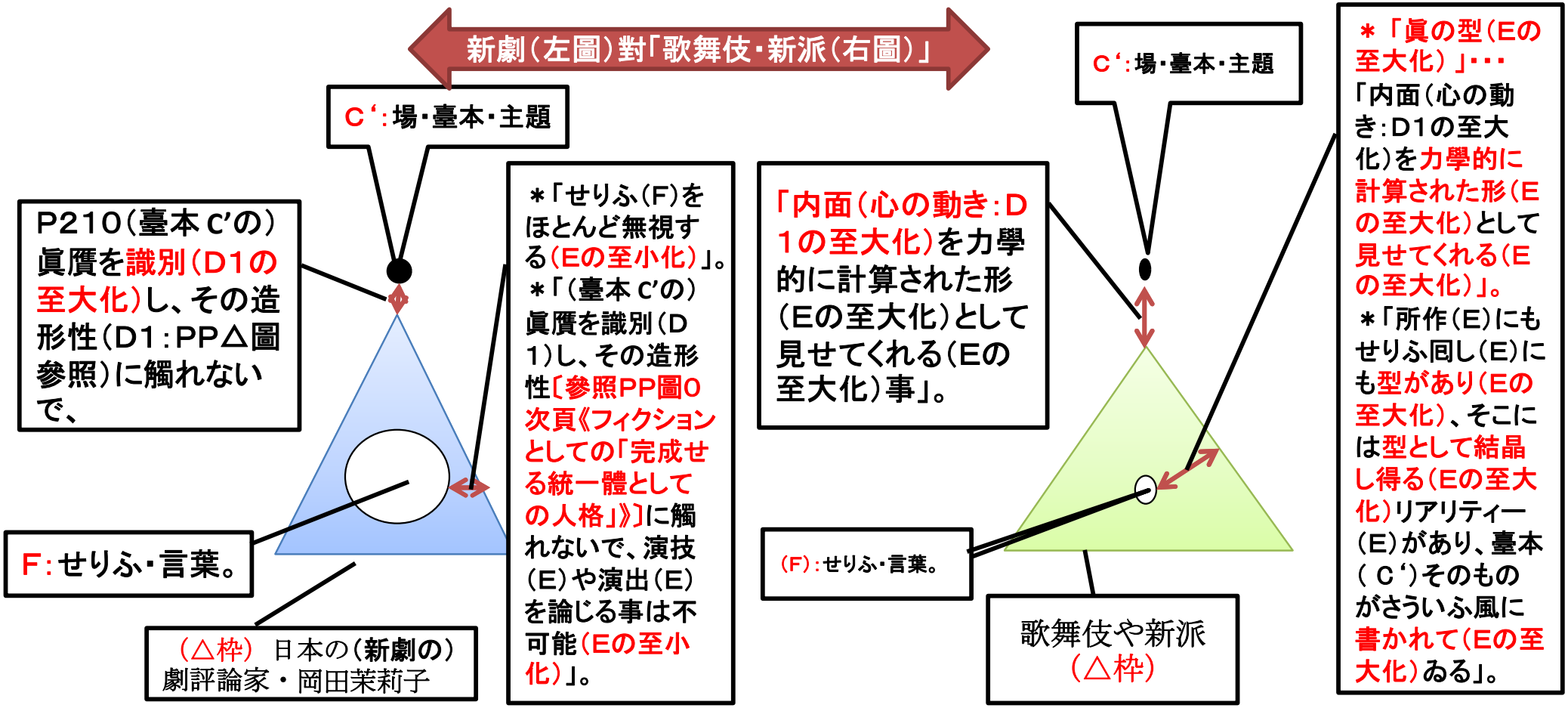P208〔坂東玉三郎宛〕:
P208（右圖參照）「眞の型（Eの至大化）といふのは寫實（リアリズム：E）に則り、寫實（リアリズム：E）を殺して内面（心の動き：D1の至大化）を力學的に計算された形（Eの至大化）として見せてくれる（Eの至大化）事で、約束通りの仕來り（即ち『子供に芝居ごつこを樂しまれる』：Eの至小化）の意味ではない」。
P210〔岡田茉莉子宛〕:
P210（右圖參照）「歌舞伎や新派（△枠）なら正面切つても（E）、その所作（E）にもせりふ囘し（E）にも型があり（Eの至大化）、そこには型として結晶し得る（Eの至大化）リアリティー（E）があり、臺本（C'）そのものがさういふ風に書かれて（Eの至大化）ゐる」。
P213（左圖參照）「なぜ日本の（新劇の）劇評論家諸氏（△枠）は臺本（C'）を、そのせりふ（F）をほとんど無視する（Eの至小化）のか、（中略）その（臺本C'の）眞贋を識別（D1の至大化）し、その造形性〔PP圖次頁參照：《フィクションとしての「完成せる統一體としての人格」》〕に觸れないで演技（E）や演出（E）を論じる事は不可能（Eの至小化）である」。